

東日本ユニオン よこはま

JR東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/小清水和彦

横浜地方本部第10回地方委員会開催！ 委員会方針の確立と「2025 春闘勝利」に向け全組合員で確認！

東日本ユニオン横浜地本は、2月25日「川崎市総合自治会館」において「第10回地方委員会」を開催しました。第14回定期大会以降、運動の総括と成果を全体で確認し、次期大会までの活動方針を参加者全員で確認してきました。



小清水委員長挨拶

2024年度年末手当は3.8カ月要求の実現に向けて取り組みをつくり出してきた。組合員一人ひとりが統一行動を行うことを確認し、一生懸命に相手と向かい合って会社に対する本音を集めていただいた。しかし、回答は基準内賃金の2.9ヶ月この悔しさを忘れてはいけない。第12回中央委員会が開催され、2025春闘の要求が決定をされた。地本意見交換会を開催し、基本給が低いという認識をみんなで確認してきた。足りないのは基本給だけでしょうか。私たちの怒りや職場での雰囲気は足りているか。組合員の皆さんと一緒に要求実現に向けて頑張りましょう。



中央本部藤本委員長挨拶

中央委員会以降、2025春闘勝利に向け、基本給に対する本音を集める取り組みを各職場から展開をしている。2月21日現在全体で488の声が寄せられています。多くは、基本給が安い低いといった声であった。JR発足以来、私たちの基本給ほとんど変わっていない。私の場合、いわゆる純ベアが34年間で70,000円。この20年間では13,525円しか上がっていない。物価は上昇し、家計は苦しくなる一方であり、大幅な賃上げを公言している企業もあり、昨年以上に気運は高まっている。第3四半期決算が発表され、順調に推移をしている。現場で奮闘し、一つひとつ積み重ねによって生み出した私たちの成果に自信を持ち、堂々と闘っていきたい。

質疑では、11名の委員から「2025春闘のたたかい」「南武線ワンマン運転に伴う取り組みについて」「駅業務執行体制の再構築について」「共闘のたたかい」「南武線Buddycomについて」「職場の要員について」「車両職場の効率化について」などの発言がありました。

鈴木書記長集約答弁

横浜地本第14回定期大会以降、東日本ユニオンの運動を共に作り出していただいた。昨年11月南武線ワンマン運転の提案を受け、南武線ワンマン運転の安全を担保するためには、ゆとりが必要だと団体交渉で訴えた。これからも働きやすさを追求していく。南武線ワンマン化に伴い、転勤が行われる。迎える側の皆さんは歓迎ができる体制をしっかりつくっていただきたい。それぞれが仲間のことを思える組織をつくり、仲間は大切だと実感できる横浜地本にし、気持ちを共に運動を担っていこう。会社は、毎年のように「変革2027」を具現化するため「変革のスピードアップ」の名のもと提案を進めている。業務の融合の先は効率化ばかり、人を意識していない。それぞれの立場で考えを忖度なしで話ができるのは労働組合だけ。私たちの強みは仲間がいて、それぞれの想いがわかること。まずは声を出せる環境をみんなで作っていこう。横浜地本は2025春闘の取り組みをさらに勢いづけるため意見交換会を開催した。私たちの基本給は総じて低いということを皆さんも実感していると思う。賃上げで声を出すのは今しかできない。声を聞く取り組みは地道な取り組みとなるが、2025春闘をみんなで進めていこう。

**労働に見合った「賃金引き上げ」を実現するために、
「2025 春闘」勝利に向けてたたかいをつくりだそう！**